

京都大学	博士 (社会健康医学)	氏名	廣居伸蔵
論文題目	Impact of health insurance coverage for <i>Helicobacter pylori</i> gastritis on the trends in eradication therapy in Japan: retrospective observational study and simulation study based on real world data (日本の <i>H.pylori</i> 除菌療法に対する保険適用拡大の影響の検討)		
(論文内容の要旨)			
<p>【背景】 我が国では、2000年に <i>Helicobacter pylori</i> (<i>Hp</i>) 除菌療法に対する保険適用が胃・十二指腸潰瘍に対して適用され、その後、対象疾患が順次拡大した。本研究では、<i>Hp</i> 除菌療法の保険適用が同療法の実施状況に及ぼす影響の検討を行うとともに、我が国の <i>Hp</i> 感染者数について推定した。</p> <p>【方法】 研究デザインは、後ろ向き観察研究及びシミュレーション研究である。医療データベース、販売データ (除菌パック製剤、感染診断用剤) 及び先行疫学研究の結果を使用した。</p> <p>【結果】 除菌成功者数は2006年以降、約70万人/年で推移したが、2013年に倍増した。診断の内訳では、保険適用が拡大された2013年以降は <i>Hp</i> 感染胃炎患者が過半数を占めた。将来の <i>Hp</i> 感染者数を予測した結果、2050年には総人口の5%程度まで減少すると考えられた。</p> <p>【考察】 本研究の限界として、除菌成功率について仮定値を用いて推定したため、実際の成功率と異なる可能性がある。</p> <p>【結論】 我が国の <i>Hp</i> 除菌療法に対する保険適用及びその適用拡大が <i>Hp</i> 感染者数の減少に寄与したことが示唆された。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

我が国では、2000年に *Helicobacter pylori* (*Hp*) 除菌療法に対する保険適用が胃・十二指腸潰瘍に、2013年には *Hp* 感染胃炎へと拡大されたが、*Hp* 感染に関する大規模な疫学研究は行われていない。そこで、医療DBを用いて、*Hp* 除菌療法の保険適用による影響を検討するとともに、先行疫学研究の結果を用いて *Hp* 感染者数について将来予測を行った。

近年の除菌成功者数は約70万人/年で推移していたが、2013年に倍増し、その過半数は *Hp* 感染胃炎患者であった。将来の我が国の *Hp* 感染者は2050年に総人口の5%程度まで減少すると見込まれた。

DPC急性期病院診療DBにおける外来患者の割合は約90%であり、社会保険レセプトDBの患者背景、治療といずれも類似していた。*Hp* 除菌モデルのパラメータについて感度解析を行ったが結果に大きな影響は及ぼさなかった。*Hp* 感染者数の将来予測について、2000年以降の疫学研究を用いて検証した結果、シミュレーションが妥当であることが確認された。

高齢者の死亡や衛生環境の改善に伴って、従来から *Hp* 感染者は減少傾向にあったが、*Hp* 除菌治療が保険適用されたことによって、その減少の程度が加速したことが明らかになった。

以上の研究は、我が国の保険医療の制度変更が治療に及ぼす影響を定量的に評価、検証することのみならず、*Hp* 感染者数が多いアジア諸国における医療制度を改革する際の有用な判断材料として活用され得る。

したがって、本論文は博士(社会健康医学)の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、平成30年1月26日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日： 年 月 日以降